

寒山拾得縁起

森鷗外

青空文庫

徒然草に最初の佛はどうして出来たかと問はれて困つたと云ふやうな話があつた。子供に物を問はれて困ることは度々である。中にも宗教上の事には、答に窮することが多い。しかしそれを拒んで答へずにしまふのは、殆どそれは嘘だと云ふと同じやうになる。近頃歸一協會などでは、それを子供のために悪いと云つて氣遣つてゐる。

寒山詩が所々で活字本にして出されるので、私の内の子供が其廣告を讀んで買つて貰ひたいと云つた。

「それは漢字ばかりで書いた本で、お前にはまだ讀めない」と云ふと、重ねて「どんな事が書いてあります」と問ふ。多分廣

告くに、修しう養やうのために讀よむべき書しよだと云いふやうな事ことが書かいてあ

つたので、子こ供どもが熱ねつ心しんに内ない容ようを知しりたく思おもつたのであらう。

私わたくしは取とり敢あへずこんな事ことを言いつた。床とこの間まに先さき頃ころ掛かけてあつ

た畫ゑをおぼえてゐるだらう。唐から子このやうな人ひとが二ふた人たりで笑わらつてゐた。

あれが寒かん山ざんと拾じつ得とくとをかいたものである。寒かん山ざん詩しは其その寒か

山ざんの作つくつた詩しなのだ。詩しはなかくゝむづかしいと云いつた。

子こ供どもは少すこし見けん當たうが附ついたらしい様やう子すで、「詩しはむづかしくて

わからないかも知しれませんが、その寒かん山ざんと云いふ人ひとだの、それと

一いしよにゐる拾じつ得とくと云いふ人ひとだのは、どんどんな人ひとでござごいます」と

云いつた。私わたくしは已やむことを得えないで、寒かん山ざん拾じつ得とくの話をはなしした。

私わたくしは丁ちやう度ど其その時とき、何なにか一ひとつ話はなしを書かいて貰もらひたいと頼たのまれてゐた

ので、子供こどもにした話を、殆ほとんど其儘書いた。いつもと違ちがつて、一冊さつの参さ考書んかうしょをも見みずに書かいたのである。

此この「寒山拾得」と云いふ話は、まだ書肆しよしの手てにわたしはせぬが、多分たぶん新小説しんせうせつに出でることになるだらう。

子供こどもは此話こゝなには満まん足ぞくしなかつた。大人おとなの讀どく者しやは恐おそらくは一層そう満まん足ぞくしないだらう。子供こどもには、話はなした跡あとでいろ／＼の事ことを問とはれて、私わたくしは又また已またむことを得えずに、いろ／＼な事ことを答こたへたが、それを悉ことごとく書かくことは出で來きない。最もつとも窮きうしたのは、寒山かんざんが文殊もんじゆで、拾得じつとくは普賢ふげんだと云いつたために、文殊もんじゆだの普賢ふげんだの事ことを問とはれ、それをどうかかうか答こたへると、又またその文殊もんじゆが寒山かんざんで、普賢ふげんが拾得じつとくだと云いふのがわからぬと云いはれた時ときである。私わたくしはと

うく、みやぎきとらのすけ宮崎虎之助、ことさんの事を話した。みやぎき宮崎さんはメツシアスだと自分で云つてゐて、まをその又其メツシアスを拜みに往く人もあるからである。これは現在げんざいにある例で説明したら、いく幾らかわかり易やすからうと思つたからである。

しかし此説明は功を奏せなかつた。こども子供には昔の寒山が文殊んじゆであつたのがわからぬと同じく、いま今の宮崎さんがメツシアスであるのがわからなかつた。わたくしひと私は一つの關を躑えて、またひと又一つの關に出逢つたやうに思つた。そしてとうくかう云つた。

「實は。パパも文殊もんじゆなのだが、まだ誰たれも拜をがみに來こないのだよ。」

青空文庫情報

底本：「鷗外全集 第十六卷」岩波書店

1973（昭和48）年2月22日発行

※底本では「寒山拾得」「附寒山拾得縁起」と「附」付きでまとめてあったものを、「寒山拾得」「寒山拾得縁起」として分割しました。

入力：青空文庫

1997年10月8日公開

2004年3月24日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

寒山拾得縁起

森鷗外

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>